

授業科目	母性看護学概論	担当教員 外部講師☆ ①吉村 さと子 ②福田 優子 ③堀部 雅子	単位数	1	時期	1年次 10月～12月	DP	1 2
			時間数	30				
目的と目標	<p>母性看護・リプロダクティブヘルスの概念を理解し、母性看護の対象を取り巻く現状と女性のライフサイクル各期における看護を学ぶ。</p> <p>1 母性看護の基盤となる概念が理解できる。 2 母子とその家族を取り巻く社会における母子保健・看護活動が理解できる。 3 母性のライフサイクル各期の特徴に応じた看護が理解できる。 4 母性看護における倫理的課題について理解できる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担 当 教 員			
1 2	母性看護の基盤となる概念	(1) 母性看護のあり方 ①母性看護の理念 ②母性看護の課題と展望 (2) 母性・父性とは ①母性の発達・成熟・継承 ②母性の身体・心理・社会的特性 ③母性看護における母性・父性 (3) 母子・父子関係と家族発達 ①愛着・母子相互作用と母子関係形成 ②女性・家族のライフサイクル		講 義	外部講師 (吉村さと子)			
3 4	リプロダクティブヘルスに関する概念	(1) リプロダクティブヘルス/ライツ ①リプロダクティブヘルス/ライツとは ②女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 (2) セクシュアリティとジェンダー ①セクシュアリティ ②ジェンダー (3) 性の多様性 ①ヒトの発生・性分化のメカニズム ②性分化疾患 ③性意識の発達 ④性同一性障害		講 義	外部講師 (福田 優子)			
5 6 7	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (9時間)	(1) 母性看護の歴史的変遷と現状 (2) 母子保健統計からみた動向 (3) 母性看護にかかわる法律 (4) 母性看護の提供システム		講 義	外部講師 (吉村さと子)			
8		(5) 母子保健施策からみた現状と課題		講 義	外部講師 (堀部 雅子)			
9		(6) 在留外国人の妊産婦と家族の支援		講 義	外部講師 (吉村さと子)			

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
10 11 12 13	女性のライフサイクル各期における看護	(1) 思春期の健康と看護 ①思春期女性の特徴 ②健康問題と看護 (月経異常、性感染症、人工妊娠中絶) ③健康教育 (2) 成熟期の健康と看護 ①成熟期女性の特徴 ②健康問題と看護 (3) 更年期の健康と看護 ①更年期女性の特徴 ②健康問題と看護 (4) 老年期の健康と看護 ①老年期女性の特徴 ②健康問題と看護	講 義	外部講師 (福田 優子)
14 15	出生前からのリプロダクティブヘルスケア (4時間) 試験 (1時間)	(1) 遺伝相談 (2) 不妊治療と看護 (3) 母性看護における倫理	講 義	外部講師 (福田 優子)
評価方法	筆記試験 100点 (1～2回・5～7・9回:50点、3～4回・10～15回:50点)			
教科書 参考文献	系看 専門 24 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院) 系看 専門 25 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) ……14・15回目に使用			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。			
☆担当教員 の実務経験	①②助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③助産師・保健師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	妊娠期・分娩期・新生児期の看護	担当教員	専任教員☆ ①棚橋 潤美 外部講師☆ ②堀江 志乃 ③吉村 さと子 ④山本 裕 ⑤野田 充季	単位数	1	時期	1年次 12月～3月	DP	1 3 4
			時間数	30					
目的と目標	<p>妊娠期・分娩期・新生児期における母児の生理的変化と母児関係を理解し、対象およびその家族に対して適切な看護ができる基礎的知識を学ぶ。</p> <p>1 妊娠期・分娩期・新生児期の生理的変化と経過がわかる。 2 妊娠期・分娩期・新生児期にある対象の看護がわかる。 3 妊娠期・分娩期・新生児期における基本的援助技術を習得できる。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1 2 3 4	妊娠期における看護	<p>(1) 妊娠期の身体的特性</p> <p>①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的変化</p> <p>(2) 妊娠期の心理・社会的特性</p> <p>(3) 胎児と妊婦のアセスメント</p> <p>(4) 妊婦と家族の看護</p> <p>①妊婦が受ける母子保健サービス ②妊婦の健康相談・教育の実際 ③親になるための準備教育</p> <p>(5) 妊娠期における異常と看護</p> <p>①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 ④妊娠持続期間の異常 ⑤子宮外妊娠 ⑥ハイリスク妊婦の看護</p>				講 義	外部講師 (堀江 志乃)		
5 6 7	分娩期における看護	<p>(1) 分娩経過・形態機能の変化</p> <p>①分娩とは ②分娩の三要素 ③胎児と子宮および骨盤との関係 ④正常分娩の機序</p> <p>(2) 分娩期の心理・社会的変化</p> <p>(3) 分娩期にある産婦・胎児・家族のアセスメント</p> <p>(4) 産婦と家族の看護</p> <p>①看護目標と産婦のニーズ ②安全・安楽な分娩への看護 ③出産体験が肯定的になるための看護</p> <p>(5) 分娩期の看護の実際</p> <p>(6) 分娩期における異常と看護</p> <p>①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児の付属物の異常 ⑤分娩時の損傷 ⑥分娩第3期および分娩直後の異常 ⑦分娩時異常出血 ⑧異常のある産婦への看護</p>				講 義	外部講師 (吉村さと子)		

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
8 9 10 11 12 13	新生児期における看護 (11 時間)	(1) 新生児の生理 (2) 新生児期に必要なアセスメント (3) 新生児の看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院時までの看護 ③新生児の観察 (4) 異常新生児 ①新生児仮死 ②分娩外傷 ③低出生体重児 ④高ビリルビン血症 (5) 異常新生児の看護 ①低出生体重児の看護 ②健康障害を持つ新生児の看護 ③母児分離時の看護	講 義 講 義 講 義	外部講師 (吉村さと子) 外部講師 (山本 裕) 外部講師 (野田 充季)
14 15	妊娠期・分娩期・新生児期に おける看護技術 試験 (1 時間)	(1) 妊娠期における看護技術 ①レオポルド触診法 ②子宮底長、腹囲の測定法 ③胎児心音聴取法 (2) 分娩期における看護技術 ①陣痛の測定法 (3) 新生児の看護技術 ①検温 (視診・触診・聴診) の方法 ②清潔の援助方法 (沐浴・ドライテクニック) ③抱き方・更衣・おむつ交換の方法 (4) 母性看護における安全・事故予防	講 義 演 習 臨床判断	専任教員 (棚橋 潤美) 外部講師 (吉村さと子)
評価方法	筆記試験 100 点 (1～4 回 : 35 点、5～11 回 : 50 点、12～15 回 : 15 点)			
教科書 参考文献	系看 専門Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	産褥期の看護	担当教員	専任教員☆ 棚橋 潤美	単位数	1	時期	2年次 4月～7月	DP	1 3 4
				時間数	30				
目的と目標	<p>周産期の対象の生理的変化と状態に応じた看護過程の展開および看護援助を学ぶ。</p> <p>1 周産期におけるアセスメントの視点がわかり、対象が理解できる。</p> <p>2 褥婦および新生児の生理的変化をふまえ、経過に応じた援助の必要性および援助方法が理解できる。</p> <p>3 産褥期における基本的援助技術を習得することができる。</p>								
回数	学習課題	内 容					方 法	担当教員	
1 2 3 4 5	産褥期における看護	<p>(1) 産褥経過・形態機能の変化</p> <p>(2) 産褥期の心理・社会的変化</p> <p>(3) 褥婦のアセスメント</p> <p>(4) 褥婦と家族の看護</p> <p>①身体機能回復および進行性変化への看護</p> <p>②児との関係確立への看護</p> <p>③育児にかかわる看護</p> <p>④家族関係再構築への看護（家族計画）</p> <p>(5) 施設退院後の看護</p> <p>①産後の生活指導</p> <p>②育児不安</p> <p>③産後の健康診査と子育て支援</p> <p>④職場復帰</p> <p>(6) 産褥期における異常と看護</p> <p>①子宮復古不全</p> <p>②産褥期の発熱</p> <p>③異常のある褥婦への看護</p>					講 義	専任教員 (棚橋潤美)	
6 7	母性看護学における ウェルネス看護診断	(1) ウェルネス看護診断とは					講 義	専任教員 (棚橋潤美)	
8 9 10 11 12 13	看護過程の展開 (11時間)	(1) 褥婦および新生児の看護過程の展開					講 義 演 習	専任教員 (棚橋潤美)	
14 15	産褥期における看護技術	<p>(1) 産褥復古に向けた看護技術</p> <p>①褥婦の観察</p> <p>(2) 母乳栄養確立に向けた看護技術</p> <p>①乳房の手当 ②授乳の援助</p>					講 義 演 習	専任教員 (棚橋潤美)	
	試験 (1時間)								
評価方法	筆記試験 65点、提出物(看護過程) 35点 合計 100点 *再試験の場合、筆記試験 100点分で評価する。								
教科書 参考文献	系看 専門Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)								
事前準備や 受講条件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。								
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								